

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大状況下において、会員校の皆様へメッセージ

2020年12月21日

一般社団法人日本看護系大学協議会理事会

COVID-19の拡大により看護学教育の場でも大きな影響を受けておりますが、第3波の拡大により保健医療機関や介護施設サービス等がこれまで以上にひっ迫し、地域により危機的な状況となっております。それぞれの会員校におかれまして、既に支援活動をしておられるところ、支援をどのように開始するかに悩んでおられるところもありません。危機を看護職一同が協力し合いながら乗り越えていきたいと考え、会員校の皆様にご相談申し上げます。

1) 教員間や近隣の看護系大学、都道府県看護協会等と相談し、近隣の病院や訪問看護ステーション、高齢者・障がい者施設、保健センター等への可能な支援をご検討ください。皆様が普段実習をされているところの状況を伺うことから、その状況にあった支援活動が可能になるかもしれません。教員の支援中の保険などもあるため、手堅い関係性のところに会員校側から意向を確認するのも一案かと思われます。「年末年始に看護教員にできることはあるか」と実習病院の看護部長に問うたところ、「コロナ専用病棟を優先している為、他の内科病棟がひっ迫しているので、XX病棟の食事介助と就寝前ケアをしてほしい」という回答があり、プロジェクトチームを編成している、という大学の例もございます。実習施設や研究などを通してすでに顔なじみで、病棟等のことが良くわかっている教員、大学院生等は、コロナ専門の病院や病棟でなくても応援できるかと思えます。年末年始の休暇を現場の看護職が少しでも取れることを願います。

2) 保健所等への大学からの支援は多く報告がございます。日ごろ培われた関係から、教員、院生、内定している学生など現場の負担にならない応援団になるかと存じます。電話相談もそうですし、濃厚接触者・新たな感染者のフォロー、軽症者療養施設への継続的調整役などの可能性があるかと思われます。

3) COVID-19に関して次々に新たな研究・実践の報告が出ています。具体的な困難事例への看護提供方法に関する文献検索・情報提供なども可能かと存じます。

4) スタッフ・看護管理者ともに疲れています。精神看護学の専門の先生方は心の電話相談なども可能でしょうか。その他の領域の先生方も、それぞれご専門の領域で力が発揮できるかと思えます。

5) 看護学生の皆さんにお伝えいただければ幸いです。感染症や感染予防策について勉強したことを用いて自分自身の身を守るとともに、看護学生として今何ができるかを考え、教員と相談してできることを行っていただけたらと思います。病院や施設に出向いて直接支援するのではなく、施設に住み家族と会えない高齢者に、看護学生が手紙やビデオレター等を送付している国があります。教員と協力して最新の知見に関する文献検索を整理している学生もいます。現場のニーズに基づいて、多様な支援が創造的に考えられるでしょう。

6) 卒業生（同窓生）や有資格の大学院生がおられる大学におかれましては、次のような情報共有もご検討いただけないでしょうか。現在看護の仕事をしていない方を対象として、全国47都道府県のナースセンターで、COVID-19対応の人材確保のため看護職有資格者の登録を受け付けています。ぜひ登録をご検討ください。病院、保健所、検疫所、宿泊施設、検査施設等からの募集があり、派遣先についてはナースセンターで調整されるようです。この未曾有の健康危機にあたり、可能な範囲でご支援いただければ幸いです。

非常事態のこのような時こそ、看護職として力を合わせていければと願い、日本看護系大学協議会理事会として以上のように考えました。何卒趣旨をお汲み取りいただき、ご協力を賜れますと幸いです。